

船橋市社会科セミナー通信 第194号

5.11土 報告

勉強会会場は、いつもの〈船橋市勤労市民センター〉。今回の出席者は、会場担当で事務局長の冨澤真也（旭中）と佐藤一巳・大野肇（県立行徳高校）・藤木信弘（習志野市屋敷小）・木村潤（東京書籍）の各先生と会長の池田（長野県安曇野市在住）の**合計6名**。

その後の懇親会は、近くのフェイスビルの居酒屋で5名が参加で、藤木先生のお祝いをしました。

1本目：社会科指導法講座 3

池田義光

今回の学習指導要領改訂の目玉は「主体的・対話的で深い学び」の推進であり、今後の社会科指導としても「主体的・対話的で深い学び」は学習指導の核となるべきことである。当セミナーとしては、このことについて、セミナー会員が実践していく上で少しでもサポートになればと思い、これから「社会科指導法講座」として何回かのシリーズ化して、「主体的・対話的で深い学び」を進める社会科指導について取り上げていきたい。

「主体的・対話的で深い学び」を進める社会科指導の「中心概念と単元の構造化」について

池田義光

前回 [1] 「中心概念と単元の構造化」の理解

1 「中心概念と単元の構造化」とは

(1) 「中心概念」とは

中心概念＝その単元の本質的で中心となる概念（知識・理解事項）で、教師がその単元で学ばせたい中心的な知識・理解事項

※「中心概念」の表記は文章表現する。できるだけ端的で短い方が良い。

[例] 小単元：「雪国の暮らし」の中心概念

「雪国の人々は、雪という自然環境に対応し利用しながら生活している」

[例] 小単元「明治維新」の中心概念

「明治新政府が欧米列国に対抗できる国づくりをめざして行った諸改革（中央集権化と体制の安定策、富国強兵策）により、日本は欧米的な近代国家の基礎が整えられ、人々の生活には大きな変化があった」

(2) 「単元の構造化」とは

単元の構造化＝単元を中心概念をとらえさせるために、単元の知識・理解事項を構造的に配列すること

※「単元の学習内容の構造図」としてツリー構造の図を書くが良い

2 なぜ「中心概念の明確化と単元の構造化」が必要なのか

(1) 社会科教師の授業のこんな悩みに、答える

- ①教科書をすべて教えようとするのが多すぎて時間が足りない
- ②教科書に書いてあることは何でも大事に思えて、何が最も大事かが押さえられない
- ③全部教えようとするのですべてさらりと流す結果で興味がわかないものになってしまう
- ④授業は毎時間講義型で教師のしゃべりばかりで、児童生徒は毎時間受け身になってしまう
- ⑤どの時間も毎回同じような（説明と1問1答中心の）授業になってしまう

(2) 「中心概念の明確化と単元の構造化」の提案の意味

- ①単元を中心となる知識・理解事項を確実に身につけさせ、社会的な見方・考え方を育てたい
- ②大事な知識・理解事項と枝葉の知識・理解事項を区別し、構造的な理解をさせたい
- ③単元で身につけさせるべき知識や理解事項を明確化することで、「問題解決型学習」や「学び合い」を取り入れた「主体的・対話的で深い学び」を生み出すように、単元構成（単元の学習過程）をダイナミックにしたい

(3) 中心概念の明確化は、社会科指導としては本来当然のこと

社会科のねらいは「公民としての資質・能力の基礎を育成すること」であるから、児童生徒に社会に関する認識（知識・理解）を身につけさせるのはその根本であり、そのために社会科学習の内容（単元等）についての「中心概念を明確化」することは、社会科指導者としてなすべき当然のことなのである。

前回 [2] 中心概念明確化の仕方

1 まず、学習指導要領をよく読むことが必要

(1) 『学習指導要領』の法規性

『学習指導要領』は学校教育と学習指導に関する法規であり、教師が指導する際にはそれに基づく必要があるため、そのために『学習指導要領』を読む必要があることは言うまでも無い。また、『学習指導要領・解説』は法規ではないが、『学習指導要領』がなぜそのように記述されたのかを詳しく解説するものなので、『学習指導要領』の読解を大いに助けてくれるから是非読むべきである。

(2) 教科書は学習指導要領に基づいて記述

教師が学習指導する際に用いるべき主たる教材の「教科書」は、当然法規たる『学習指導要領』に基づいて記述されており、文科省の検定を受けているものなので、「教科書」理解のためにも『学習指導要領』をよく読み込んでおくことが必要なのである。

(3) 学習指導要領は、「中心概念明確化と単元の構造化」の重要な参考になる

教師は学習指導の前に十分な教材研究と分析が必須であり、それに基づいて「中心概念の明確化と単元の構造化」を図る必要があるが、『学習指導要領』は教材研究と分析のためにも、そして「中心概念の明確化と単元の構造化」を図るためにも重要な参考になるので、是非とも深く読み込んでおくが良い。

2 中学校学習指導要領 第2章各教科 第2節社会科 第2 各分野の目標及び内容〔歴史的分野〕を例に

(1) 歴史学習の目標を明確に捉えるために

歴史的分野の学習を展開するにあたって、歴史学習の目標は何か、は『学習指導要領』の「歴史的分野の目標を見ると3項目が明記されている。

そのうち目標1には、歴史学習の「知識・技能に関するねらい」として、『我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。』と記述されている。

つまり、歴史学習の目標の一つは「我が国の歴史の大きな流れを各時代の特色を踏まえて理解させること」と捉えれば良い。その際、「世界の歴史」は我が国の歴史の理解の背景として理解させればよいのである。

さらに『学習指導要領・解説』にはこのことについて、『我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとは、平成20年改訂の趣旨を引き継ぎ、歴史的分野の学習の中心が「我が国の歴史の大きな流れ」の理解であり、「各時代の特色」はそのために踏まえるべきものであるという位置付けを示したものである。我が国の歴史と関連する世界の歴史を背景に、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して各時代の特色を明らかにした上で、我が国の歴史を大きく捉えることができるようにすることが学習の中心であることは従前どおりである。』と記述されている。

(2) 「我が国の歴史の大きな流れを各時代の特色を踏まえて理解する」のために

『学習指導要領・解説』では、『目標の(1)に示された「歴史の大きな流れ」は、各時代の出来事を個別・詳細に教えさえすれば、おのずと理解できるというものではない。』と述べる。

その上で「解説」は、『89ページに示した図は、内容のB「近世までの日本とアジア」の中項目「(3) 近世の日本」の一部を例とした「歴史的分野の学習内容と学習の過程の構造化図」である。』として、歴史的分野の学習にあたって、「歴史の大きな流れ」を理解させるためには、各時代の学習内容について、ツリー構造で歴史学習内容等の構造化図を書くことを求めているし、その参考として『学習指導要領』に各分野の「(2) 内容」を示しているのである。従って指導者である教師は、「学習指導要領の(2)内容」及び「解説」を元に、「各時代の特色と歴史の大きな流れ」を教師自身が把握して、歴史学習に於ける「中心概念の明確化と単元の構造化」を歴史学習指導の前に図りたい。

3 「中心概念」明確化の方法

中心概念＝その単元の本質的で中心となる概念(知識・理解事項)で、教師がその単元で学ばせたい中心的な知識・理解事項

「中心概念」の明確化には、次の2方策を加味する

①指導要領法：学習指導要領からその単元の「中心概念」をとらえる

②キーワード法：その単元の本質をとらえるキーワードから「中心概念」をとらえる

①と②を加味して、中心概念を明確にする

例えば：「明治維新」という単元について、「中心概念」を明確化するには

(1)指導要領法：学習指導要領から「明治維新の中心概念」を考える

学習指導要領 2 内容 C 近現代の日本と世界 (1)近代の日本と世界

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(イ) 明治維新と近代国家の形成

開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解すること。

すなわち、『学習指導要領』によれば、「明治維新と近代国家の形成」の中心概念は
明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化した

(2)キーワード法：「明治維新」の本質をとらえるキーワードから「明治維新の中心概念」を考える

植民地化の危機脱出策(国力充実策) 明治新政府の諸改革(中央集権化と体制安定充実策、富国強兵策) 欧米化 近代化 維新＝激変

(3) ①と②を加味して、中心概念を明確にする

明治新政府が欧米列国に対抗できる国づくりをめざして行った諸改革(中央集権化と体制の安定充実策、富国強兵策)により、日本は欧米に習った近代国家の基礎が整えられ、人々の生活には大きな変化があった。

今回

[3] 中心概念明確化と単元の構造化の仕方

中学校学習指導要領 第2節 社会科 第2 各分野の目標及び内容〔歴史的分野〕

の (1) 古代までの日本 を例に

<古代までの日本>を例に、「単元の明確化と単元の構造化」

1 歴史的分野に関わる『学習指導要領』『学習指導要領・解説』理解

(1)時代区分と時代の特色理解

①『学習指導要領』ではどこまで求めているか

『学習指導要領』によれば、歴史学習の目標の一つは「我が国の歴史の大きな流れを各時代の特色を踏まえて理解させること」となっている。

その上で「時代区分」については、『学習指導要領』で使われているのは、「B 近世までの日本とアジア (1)古代までの日本 (2)中世の日本 (3)近世の日本、 C 近現代の日本と世界 (1)近代の日本と世界 (2)現代の日本と世界」のように「世界史共通の時代区分」である「古代まで→中世→近代→現代」の記述が見られるが、「日本史独特の時代区分」である「旧石器時代→縄文時代→弥生時代→古墳時代→奈良時代→平安時代→鎌倉時代→室町時代→安土桃山時代→江戸時代→明治時代→大正時代→昭和時代→平成時代」といった時代区分は用いられていない。

これから推測すれば、『学習指導要領』で求めている「各時代の特色」とは「B 近世までの日本とアジア (1)古代までの日本 (2)中世の日本 (3)近世の日本、 C 近現代の日本と世界 (1)近代の日本と世界 (2)現代の日本と世界」のそれぞれの「時代の特色」を中学生に明確に捉えさせて、そのうえで「我が国の歴史の大きな流れ」を理解させるように求めているようなのである。

しかも「古代・中世・近世・近代・現代」の「時代区分」について、それぞれ「古代とはどん

な時代か」「中世とは」といったこと（時代の定義であり、中心概念に迫るもの）については一切記述していない。それは指導者である各教師に委ねるといふことであろうか。これは大変困難なことである。かつての唯物史観的な歴史学では、「古代は奴隷制社会」「中世は封建制社会」といったふうに理解されていたようであるが、現在の学説では、「日本の古代」は果たして奴隷制社会ととらえていいのであろうか、など教師でもよくわからない問題があり、それでは生徒にそれを捉えさせることは困難である。

② それでは、どこまで学ばせるか

『学習指導要領』及び「解説」では、「世界史共通の時代区分」である「古代・中世・近世・近代・現代」を定義していないとしても、「B 近世までの日本とアジア (1)古代までの日本 (2)中世の日本 (3)近世の日本、 C 近現代の日本と世界 (1)近代の日本と世界 (2)現代の日本と世界」の「時代の特色」を明らかにして我が国の歴史の流れを理解する学習を求めているのだから、教師としてはこの趣旨に沿う必要があり、これを単元とした学習が必要となる。

そのうえで、私は、「旧石器時代→縄文時代→弥生時代→古墳時代→奈良時代→平安時代→鎌倉時代→室町時代→安土桃山時代→江戸時代→明治時代→大正時代→昭和時代→平成時代」といった「日本史独特の時代区分」を理解させ、その特色を捉えさせる学習は必要だと思っている。そもそも「日本史独特の時代区分」は日本社会に生きる大人の常識として求められているものと考え、中学生が学ぶ様々な歴史的事象がいつごろのことなのかを判断する「ものさし」としてもこのくらいのことを知り理解しておくことは必要なことと考えるからである。

(2) 単元構成

以上を踏まえた「B 近世までの日本とアジア」と「C 近現代の日本と世界」の単元構成は、「大単元」が「(1)古代までの日本」「(2)中世の日本」「(3)近世の日本」「(4)近代の日本と世界」「(5)現代の日本と世界」とすべきである。

2 <古代までの日本>の単元について

(1) 「大単元」と「中単元」の設定

『学習指導要領』には次のように記載されている。

(1)古代までの日本

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 世界の古代文明や宗教のおこり … 世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解すること。

(イ) 日本列島における国家形成 … 日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解すること。

(ウ) 律令国家の形成 … 律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解すること。

(エ) 古代の文化と東アジアとの関わり … 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解すること。

従って、大単元<古代までの日本>については、以下の4つの中単元を設定するとよい。

大単元<古代までの日本>

中単元(ア) 世界の古代文明や宗教のおこり

中単元(イ) 日本列島における国家形成

中単元(ウ) 律令国家の形成

中単元(エ) 古代の文化と東アジアとの関わり

(2) 大単元<古代までの日本>で取り上げる対象

① 「人類の出現」と「日本列島に人々が住み始めた頃」を取り上げないのか？

『学習指導要領』の上述の部分では、この点は不明であるが、「内容の取り扱い」で

(3)内容のBについては、次のとおり取り扱うものとする。

ア (1)のアのアの「世界の古代文明」については、人類の出現にも触れ、～
(1)のアのイの「日本列島における国家形成」については、狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことに気付かせるようにすること。～

とあるので「人類の出現」には触れるべきである。また、「日本列島に人々が住み始めた頃」である旧石器時代の日本列島や「縄文時代」についても触れるべきと私は考える。

②いつまでを「日本の古代」として取り上げるのか

「日本の中世の始まり」については、最近の学説では、「院政の開始」ぐらいからが「中世」であるととらえるようになってきているようだが、『学習指導要領・解説』では『(1) 古代までの日本 この中項目では、人類のおこりや文明の発生から 12 世紀ごろまでの歴史を扱い～』とあるので平安時代末までを想定しているようである。

3 <古代までの日本>の「中心概念と単元の構造化」

①**指導要領法**：『学習指導要領』からその単元の「中心概念」をとらえる

②**キーワード法**：その単元の本質をとらえるキーワードから「中心概念」をとらえる

①と②を加味して、**中心概念を文章表現する**

(1)大単元<古代までの日本>と中心概念

- ①**指導要領法** 『学習指導要領』では、「人類の出現と日本の原始時代」及び「古代の日本」について、中心概念に該当する記述がないので、下の記述を参考にずる。
- (ア) 世界の古代文明や宗教のおこり…世界の各地で文明が築かれたこと。
 - (イ) 日本列島における国家形成…東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったこと。
 - (ウ) 律令国家の形成…東アジアの 文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したこと。
 - (エ) 古代の文化と東アジアとの関わり…国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだこと。

②**キーワード法**

キーワードの参考に『広辞苑』を引くと

原始時代＝人類が未だ文明を持たず、原始的な生活をしていた時代

原始社会＝文明を持たない社会。都市や国家がなく、分業と階級が発達せず、文字を持たない場合が多い。

古 代 ＝歴史の時代区分の一つで、三分法に立ち、中世・近代に対する。世界史的には、原始時代の後を受け、文明と階級が成立しながら封建社会には進んでいない段階で、主として奴隷制を土台とする社会。日本では、大和政権時代・奈良時代・平安時代を指す。

「人類の出現と世界の古代文明」のキーワード

☆ 700 万年前にアフリカで人類出現 ☆次第に進化し各地に広がった ☆最初は採集・狩猟段階 ☆農耕・牧畜の開始 ☆四大古代文明の誕生

「日本に人々が住み始めた頃から日本の原始時代」のキーワード

☆氷河時代の日本に旧石器時代の人々 ☆磨製石器と縄文土器の時代 ☆稲作と金属器を持つ弥生時代

「古代の日本」のキーワード

☆各地にクニが誕生 ☆古代ヤマト政権と古墳時代 ☆飛鳥時代 ☆律令国家成立と奈良時代 ☆平安時代は貴族の世の中

①と②を加味して**中心概念を文章表現する**：大単元<古代までの日本>の**中心概念**

人類は約 700 万年前にアフリカに出現した後、各地に広がった。最初は採集・狩猟段階だった。やがて農耕・牧畜が始まった。数千年前には、オリエント、インド、中国などで古代文明が築かれた。

氷河時代の日本に旧石器時代の人々が採集・狩猟の生活をしていた。1 万 2 千～3 千年前に磨製石器と土器を持つ縄文時代になり栽培と定住が始った。紀元 4 世紀頃から稲作と金属器を持つ弥生時代になり各地にクニが誕生した。古代ヤマト政権が倭を統一し豪族連合の古墳時代となった。飛鳥時代を経て中央集権化が図られ、東アジアの 文物や制度を積極的に取り入れながら、律令国家が成立し、奈良時代を迎えた。平安時代は貴族政治の時代だった。この間、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだ。

(2) 中単元の中心概念

①指導要領法：『学習指導要領』からその単元の「中心概念」をとらえる

『学習指導要領』では＜古代までの日本＞の内容は下のよう記載されている

- (ア) 世界の古代文明や宗教のおこり … 世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解すること。
- (イ) 日本列島における国家形成 … 日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷(大和政権)による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解すること。
- (ウ) 律令国家の形成 … 律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解すること。
- (エ) 古代の文化と東アジアとの関わり … 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解すること。

この記述から、「中単元」を以下の4つの中単元を設定することができる。

- 大単元＜古代までの日本＞
- 中単元(ア) 世界の古代文明や宗教のおこり
 - 中単元(イ) 日本列島における国家形成
 - 中単元(ウ) 律令国家の形成
 - 中単元(エ) 古代の文化と東アジアとの関わり

この場合に**指導要領法**で「中心概念」を表現すると

- 中単元(ア) 世界の古代文明や宗教のおこり … 世界の各地で文明が築かれた。
- 中単元(イ) 日本列島における国家形成 … 東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていった
- 中単元(ウ) 律令国家の形成 … 東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開した。
- 中単元(エ) 古代の文化と東アジアとの関わり … 国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだ。

②キーワード法：その中単元の本質をとらえるキーワードから「中心概念」をとらえる

「人類の出現と世界の古代文明」のキーワード

- ☆ 700 万年前にアフリカで人類出現
- ☆ 次第に進化し各地に広がった
- ☆ 最初は採集・狩猟段階
- ☆ 農耕・牧畜の開始
- ☆ 四大古代文明の誕生(金属器・文字・国家・階級の成立)
- ☆ 古代宗教の成立

「日本列島における国家形成」のキーワード

- ☆ 氷河時代の日本に旧石器時代の人々
- ☆ 磨製石器と縄文土器の時代
- ☆ 稲作と金属器を持つ弥生時代
- ☆ 各地にクニが誕生
- ☆ 古代ヤマト政権と古墳時代

「律令国家の形成」のキーワード

- ☆ 飛鳥時代と天皇中心の国家づくり
- ☆ 律令国家成立と奈良時代
- ☆ 平安時代は貴族の世の中

「古代の文化と東アジアとの関わり」のキーワード

- ☆ 東アジア文化の影響を受けた国際的な文化
- ☆ 文化の国風化

①と②を加味して中心概念を文章表現：＜古代までの日本＞の「中単元の中心概念」

中単元：「人類の出現と世界の古代文明」

人類は約 700 万年前にアフリカに出現した後、各地に広がった。最初は採集・狩猟段階だった。やがて農耕・牧畜が始まった。数千年前には、オリエント、インド、中国などで古代文明が築かれた(金属器・文字・国家・階級の成立)。また古代宗教が起こった。

中単元：「日本列島における国家形成」

氷河時代の日本に旧石器時代の人々が採集・狩猟の生活をしていて、1 万数千年前に磨製石器と土器を持つ縄文時代になった。紀元 4 世紀頃から稲作と金属器を持つ弥生時代になり各地にクニが誕生した。古代ヤマト政権が倭を統一し豪族連合の古墳時代となった。

中単元：「律令国家の形成」

飛鳥時代を経て中央集権化が図られ、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れなが

ら、律令国家が成立し、奈良時代を迎えた。平安時代は貴族政治の時代だった。
中単元：「古代の文化と東アジアとの関わり」
この間、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだ。

(3) 小単元の中心概念

さらにこの下に「小単元」を設定するなら、さらに細かい「小単元の中心概念」を明らかにする必要が出てくる。

「旧石器時代→縄文時代→弥生時代→古墳時代→奈良時代→平安時代→鎌倉時代→室町時代→安土桃山時代→江戸時代→明治時代→大正時代→昭和時代→平成時代」といった「日本史独特の時代区分」を理解させ、特色をとらえさせる考えなら、この大単元「古代までの日本」の小単元では「旧石器時代(先土器時代)」「縄文時代」「弥生時代」「古墳時代」「奈良時代」「平安時代」を設定したい。

(4) 本時の中心概念

さらに毎時間の授業が、「単元を貫く問題解決型」の授業にするなら、その「単元の中心概念」を明らかにすればよく、「本時の中心概念」は必要ないが、「本時の中だけでの問題解決型」や「本時を講義式の系統学習」にするなら、「本時の中心概念」も明確にして置く方がよい。

(5) 本時に取り上げる歴史的事象

「本時の中心概念」の記述と同じ基準で「本時に取り上げる歴史的事象」を明らかにしておくとうい。

以上の(1)～(5)を「ツリー構造」で記述すると「中心概念と単元の構造化図」となる。

2本目:変わる歴史教科書1

池田義光

「歴史は変わらない」と思われがちだが、歴史的事実や考察は実は確定したものではない。かつて私たちが知っていた歴史的出来事や考察も新しい史料や遺物などの発見や研究の進展によって変わり、教科書が書き替えられるということも多々あるのだ。
今回は原始・古代史の中から「教科書が書き替えられた事例」をいくつか紹介する。

変わる歴史教科書[第1回] (原始・古代編)

池田義光

<事例を紹介する教科書>

☆高校教科書

①山川出版『詳説 日本史B』(2016年文部科学省検定済、2018年発行) : 高校日本史シェア約6割

☆中学校教科書

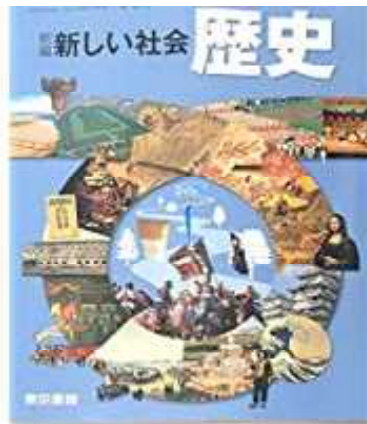
②東京書籍『新編新しい社会 歴史』(2015年文部科学省検定済、2018年発行) : 中学歴史シェア75割

③教育出版『中学社会 歴史』(2015年文部科学省検定済、2017年発行)

教科書①



教科書②



教科書③



<参考図書>

- ①三笠書房・知的生き方文庫『書き替えられた日本史』：歴史ミステリー倶楽部編
- ②吉川弘文館『ここまで変わった・日本史教科書』高橋秀樹・三谷芳幸・村瀬信一著
- ③文藝春秋・文春新書『日本史の新常識』文藝春秋編
- ④中央公論新社・中公新書『日本史の論点』中公新書編集部編
- ⑤宝島社『こんなに変わった！日本史教科書』山本博文監修
- ⑥宝島社『変わる日本史』日本史歴史学会著
- ⑦英和出版社『あなたの知識はもう古い？最新日本史教科書』東由士編集
- ⑧二見書房・二見文庫『あなたの習った教科書の常識が覆る・世界一受けたい日本史の授業』河合敦著
- ⑨河出書房新社・KAWADE夢文庫『もうすぐ変わる・日本史の教科書』河合敦著
- ⑩山川出版『改訂版・詳説日本史研究』佐藤信・五味文彦・鳥海靖編
- ⑪山川出版『日本史用語集』全国歴史教育研究協議会編

<学習指導要領・学習指導要領解説>

- ①中学校学習指導要領(平成29年告示)解説

1 「洪積世」「沖積世」は使わない

地質学の地質年代では、約1万年前を境に、約260万年前から約1万年前までの時代を「更新世(氷河時代とも呼ぶ)」、約1万年前から現在までの時代を「完新世」という。かつてはそれを「洪積世」「沖積世」と呼んでいたのだが、「洪積世」は大洪水による堆積物形成の時代、「沖積世」は河川的作用による堆積物形成の時代という意味で、「ノアの洪水伝説」に由来する命名であり科学を神話と結びつけるべきでないとして現在では用いないようになった。

2 日本史の始まり：日本列島にはいつから人が住んだのか？

[従来の説] 1970年頃から、「ゴッドハンド」と呼ばれた民間研究者の藤村新一氏により旧石器時代の遺跡が次々と発見された。中でも宮城県上高森遺跡から出土した石器は最古のもので約60万年前の石器と推定された。これらが史実と思われて教科書にも記載されていた。

[現在の説] ところが、2000(平成12)年に、藤村新一氏が全国187カ所の遺跡でこれらの旧石器発見を捏造していたことが判明した。そのため日本列島にいつから人が住んだのかについて学説は大混乱と成り、研究のし直しとなった。そして教科書では「発見された旧石器遺跡の多くは3万年5000前以降の後期旧石器時代のものである。」と書かれるようになった。そしてその後の研究で、現在最古のものとされているのは、岩手県遠野市金取遺跡が約9～8万年前の中期旧石器時代のもの、島根県出雲市砂原遺跡が12～11万年前の中期旧石器時代のもので推定されている。

[現在の高校教科書：山川出版『詳説 日本史B』] 『現在までに日本列島で発見された更新世の化石人骨は、静岡県浜北人や沖縄県の港川人・山下町洞人など、いずれも新人段階のものである』 『日本列島で発見されている旧石器時代の遺跡の多くは約3万6000前以降の後期旧石器時代のものであるが、各地で中期(約3万6000年前～約13万年前)や前期(約13万年前以前)旧石器時代にさかのぼる遺跡の探究が進められている。』 『1931(昭和6)年に兵庫県明石で発見された明石人を原人とする説があったが、最近の研究では新人であることが判明し、さらには完新世のものとする意見が強い。』

[現在の中学教科書：東京書籍『新編新しい社会 歴史』] 岩宿遺跡の発見により日本にも旧石器時代があったことと旧石器時代の人々の生活は記載しているが、いつから始まったかは記載していない。

[現在の中学教科書：教育出版『中学社会 歴史』] 日本の旧石器時代の人々の生活は記載しているが、いつから始まったかは記載していない。

3 縄文時代の始まりはいつか？

縄文時代に入ると土器(縄文土器)が生まれ、磨製石器(新石器)が使われるようになるなど様々な変化が生まれたがそれぞれに時期は少しずつ異なる。そこで縄文時代と旧石器時代を分けるのは土器(縄文土器)の使用開始とされている。

[従来の説] 今から約1万年前の完新世の開始の頃から縄文時代が始まったとされた。

[現在の説] 今から約1万2000年前または1万3000年前から縄文時代が始まったとされている。

しかし青森県大平山元遺跡出土の無文土器付着炭化物をAMS法(高精度の炭素14年代測定法)で測定した結果では、約1万6500年前と推定されている。

[現在の高校教科書: 山川出版『詳説 日本史B』] 『こうした自然環境の変化に対応して、人びとの生活も大きく変わり、縄文文化が成立する。この文化は約1万3000年前から、水稲農耕をとまなう弥生時代が始まる約2500年前頃までの期間にわたった(縄文時代)。』『この較正炭素年代法によると、縄文時代の始まりは1万6500年前、弥生時代の始まりは約2800年前になる。較正炭素年代法は欧米では広く用いられているが、日本ではこれを認めない研究者もいる。本書では、弥生時代以前の年代については、従来の補正以前の炭素14年代で記述しているが、実際にはこれよりかなり古くなる可能性がある。』

[現在の中学教科書: 東京書籍『新編新しい社会 歴史』] 『日本列島の人々は1万2000年ほど前から土器を作り始めました。～この土器は、表面に縄目のような文様が付けられていることが多いので、縄文土器と呼ばれています。このため、このころの文化を縄文文化、この時代を縄文時代と呼びます。』

[現在の中学教科書: 教育出版『中学社会 歴史』] 『1万数千年前から、日本列島の人々は、土器をつくり、食べ物の煮炊きや保存などに使うようになりました。このころの土器は、縄目のような文様がついたものが多いことから、縄文土器と呼ばれています。』

4 縄文時代の時代(時期)区分が変わった！

[従来の説] 縄文時代は、研究当初は、前・中・後の三期区分だったが、資料の増加や研究の進展によって早期、晩期が加わり、早期・前期・中期・後期・晩期の5つの時期に区分されて考えられた。

[現在の説] 縄文時代は、さらに草創期が加わり、現在は、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6つに区分されるようになった。④3教科書とも草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6区分をとっている。

5 現在は「縄文式土器」とは言わない！

(1) かつては「縄文式土器」と呼んだが、現在は「縄文土器」と呼ぶ。

「〇〇式」は形式・型式・様式など特定の特徴に基づく"分類"を示すので、縄文時代の土器は土器そのもの"名称"を指す「縄文土器」と呼ぶ。「縄文土器」の中で、時期や地域の違いから特定の特徴が表れた場合には、例えば「亀ヶ岡式縄文土器(青森県つがる市の亀ヶ岡遺跡の土器を基準とする東北地方の縄文時代晩期の土器の総称)」などと用いられる。④3教科書とも「縄文土器」と記述している。

(2) かつては「縄文式土器」は縄目があると考えられていたが、現在では縄目のない「縄文土器」もあるとされている。(例えば「無文土器」)。④3教科書とも『縄目の文様をもつものが多いので縄文土器と呼ばれ。』としている

6 栽培と定住の開始について、縄文人の生活イメージが変わった！

[従来の説] かつては、(1)縄文人は食料は採集・狩猟で獲得していて農耕・牧畜はまだ行っていなかった。(2)住居の周辺で食料がなくなると移住せざるを得なかった。住居は竪穴式住居ばかりであった。というのが定説であった。

[現在の説] 今では、(1)本格的な農耕の段階まではいかないが栽培も開始した。(2)人々の生活は安定して定住も始まった。と変更された。

(A)「三内丸山遺跡」の発見が「かつての縄文時代の常識」を塗り替えた：青森県の三内丸山遺跡の発掘と研究の結果、ここには、5500年前～4000年前の約1500年間に、35ha(東京ドーム7.5個分)に及ぶ巨大集落があったことが分かった。つまりそれだけ長期間にわたって定住していた地域もあったのである。しかも最盛期の縄文時代中期には約500人が集団生活を送っていた。遺跡からは同時期には20～30軒で合計500軒以上の住居跡が発見された。中には大型掘立柱建物跡も見つかった。クリ・ヒョウタン・エゴマ・ゴボウ・豆類を栽培していた。ヤマブドウ・キイチゴなどから酒も製造(狩猟・採集民は酒は造らないというのがこれまでの定説)。

(B) 縄文時代に植物栽培が行われていたことは確実であると考えられている：福井県の鳥浜貝塚の前期の層から栽培植物(アズキ、エゴマ、ウリ、ヒョウタン、ゴボウ)が、早期の層からヒョウタンが検出されている。一方、北部九州の後・晩期遺跡の遺物で焼畑農耕が行われていた可能性が高いと考えられている。福岡県下の後・晩期遺跡の花粉分析、熊本市の遺跡でイネ、オオムギ、大分県遺跡でイネなどが検出されており、東日本からも、同じく後・晩期の10個所を超える遺跡からソバの花粉が検出されている。これらも焼畑農耕による栽培であると推定されている。

(C) 鹿児島の上野原遺跡では約9500前に人々が定住したと考えられる集落が確認されている。

[現在の高校教科書: 山川出版『詳説 日本史B』] 『縄文時代の人々は、～、前期以降には～木の実やヤマイモなどを採取するばかりでなく、クリ林の管理・増殖、ヤマイモなどの保護・増殖、さらにマメ類・エゴマ・ヒョウタンなどの栽培もおこなわれたらしい。また一部にはコメ・ムギ・アワ・ヒエなどの栽培も始まっていた可能性が指摘されているが、本格的な農耕の段階には達していなかった。』
『西アジアや中国などでは新石器時代になると農耕や牧畜などの食料生産の段階に入るのに対し、日本の縄文文化は基本的には食料採取段階の文化である。』『食料の獲得方が多様化したことによって、人びとの生活は安定し、定住的な生活が始まった。彼らは地面を掘りくぼめ、その上に屋根をかけた竪穴住居を営んだ。～。さらに青森県三内丸山遺跡のように、集合住居と考えられる大型の竪穴住居がともなう場合もある。これらのことから、縄文時代の社会を構成する基本的な単位は、竪穴住居4～6軒程度の世帯からなる20～30人ほどの集団であったと考えられている。』

[現在の中学教科書: 東京書籍『新編新しい社会 歴史』] 『縄文時代には植物の栽培が始まりました(そば、ひょうたん、いもなどが栽培されていたようです)が、海面が上昇し、海岸には多くの入り江ができたため、魚や貝が豊富にとれ、くり、どんぐりなどの木の実や、鳥、しか、いのししなどの動物も豊かだったので、農耕や牧畜はあまり発達しませんでした。』『人々は集団を作って食料が得やすい場所にとどまり、地面をほったくぼみに柱を立てて屋根をかけた、たて穴住居に分かれて住みました。』
『三内丸山遺跡は、縄文時代の代表的な遺跡で、5500年ほど前から1500年以上続き、最大で500人が住んでいたといわれます。』

[現在の中学教科書: 教育出版『中学社会 歴史』] 『このように、縄文土器を使い、人々が主に狩りや漁、採集で暮らしを営んでいた時代を、縄文時代といいます。気候が温暖になり、食料を安定して得られるようになると、人々は同じ場所に住み、むらをつくって暮らすようになりました。住まいは、地面を掘り下げた床に柱を立て、草や木の枝で屋根をふいた竪穴住居でした。』

④ 教育出版は、栽培の開始に触れていない。

7 稲作はいつ始まったのか? どのように広まったのか?

[従来の説] 弥生時代の始まりが稲作の始まりとされた。それが次第に弥生前期に西日本まで広まり、やがて東日本にも弥生中期に関東、後期に東北に広まった。

[現在の説] (1) 水田耕作による稲作は、縄文時代の終わり(晩期)には北九州地方に伝わっていた。(1978年に福岡県福岡市板付遺跡から縄文時代晩期の水田跡発見)(1981年に佐賀県唐津市菜畑遺跡から縄文時代晩期の水田跡発見)(1981年に福岡県福岡市野多目遺跡から縄文時代晩期の用水路と水田跡と磨製石包丁発見)

(2) 陸稲の栽培は、水田耕作の水稲より古く、岡山県総社市南溝手遺跡から縄文時代後期中頃に陸稲による稲作の証拠が見つかっている。しかし陸稲は水稲より実りが少なく、草取りも大変で、連作がきかないので、社会へ与えた影響は後の水田耕作による稲作ほど大きくなかった。

(3) 稲作の広がりについては、青森県垂柳遺跡で弥生中期の水田跡、同県砂沢遺跡で弥生前期の水田跡が検出されたこと、また東北各地で九州北部の稲作に関する遠賀川系土器が発見されたことにより、関東より早い時期に東北で水田稲作が開始されたと考えられるようになった。④ しかし東北が関東より先ということについては、未だ中高の教科書には反映されていないようである。

[現在の高校教科書: 山川出版『詳説 日本史B』] 『およそ2500年前と想定される縄文時代の終わり頃、朝鮮半島に近い九州北部で水田による米づくりが開始された。短期間の試行段階を経て、紀元前4世紀頃には、西日本に水稲農耕を基礎とする弥生文化が成立し、やがて東日本にも広まった。』
『佐賀県の菜畑遺跡、福岡県の板付遺跡など西日本各地で縄文時代晩期の水田が発見され、この時期に水稲農耕が始まっていたことが知られる。』④ 陸稲については、前述のように『また一部にはコメ・ムギ・アワ・ヒエなどの栽培も始まっていた可能性が指摘されているが、本格的な農耕の段階には達していなかった。』と記述。

[現在の中学教科書: 東京書籍『新編新しい社会 歴史』] 『紀元前4世紀ごろ、大陸(主に朝鮮半島)から移り住んだ人々によって、稲作が九州北部に伝えられ、やがて東日本まで広がりました。』

④ 東書の「紀元前4世紀ごろ」は他より遅い。

[現在の中学教科書: 教育出版『中学社会 歴史』] 『中国で農業生産の高まりとともに人口が増え、国々の争いが激しくなると、その影響は周辺にも及びました。紀元前7～6世紀ごろ、朝鮮半島などから、人々が新たな土地を求めて九州の北部に渡ってきました。これらの人々は、水田での稲作や、新たなつくりの土器や農具などの大陸の文化を日本列島に伝えました。紀元前4世紀になると、新たな文化は西日本一帯に広まり、やがて東北地方にまで伝わりました。』

8 弥生時代はいつからいつまでか?

[従来の説] 弥生時代とは弥生土器を使い始めた紀元前300年頃に始まり、このころ水稲農耕が始まった。そして弥生時代は紀元前300年頃～紀元後300年頃の約600年間続いた。

[現在の説] かつては弥生土器の開始と水稲農耕の開始が同時期と考えられていたが、現在は水稲農耕はもっと早い時期であると考えられるようになったので、弥生時代の開始を弥生土器の使用開始とす

るか水稲農耕の開始とするかで、考えが分かれる。

また、2003年に国立歴史民俗博物館が放射性炭素年代測定法(C 14法)で分析した結果、弥生時代の始まりを紀元前10世紀ごろとする研究発表をした。

[現在の高校教科書: 山川出版『詳説 日本史B』] 『およそ2500年前と想定される縄文時代の終わり頃、朝鮮半島に近い九州北部で水田による米づくりが開始された。短期間の試行段階を経て、紀元前4世紀頃には、西日本に水稲農耕を基礎とする弥生文化が成立し、やがて東日本にも広まった。こうして北海道と南西諸島を除く日本列島の大部分の地域は、食料採取の段階から食料生産の段階へと入った。この紀元前4世紀頃から紀元後3世紀の中頃までの時期を弥生時代と呼んでいる』『脚注: このように一部で稲作が開始されていながら、まだ縄文土器を使用している段階を、弥生時代の早期ととらえようとする意見もある。』

[現在の中学教科書: 東京書籍『新編新しい社会 歴史』] 『紀元前4世紀ごろ、大陸(主に朝鮮半島)から移り住んだ人々によって、稲作が九州北部に伝えられ、やがて東日本まで広がりました。このころの文化を弥生文化、この時代を弥生時代と呼びます。』『注: 弥生時代の始まりを紀元前10世紀ごろとする説もあります。』

[現在の中学教科書: 教育出版『中学社会 歴史』] 『紀元前4世紀になると、稲作などの新たな文化は西日本一帯に広まり、やがて東北地方まで伝わりました。このように、稲作が始まり、弥生土器や金属器を使うようになった時代を、弥生時代といいます。弥生時代は、紀元3世紀ごろまで続きましたが、北海道や沖縄では、まだ稲作がおこなわれず、狩りや漁、採集を中心とする独自の文化が生まれました。』『脚注: 弥生時代の始まりについては、紀元前10世紀ごろとする説もあります。』

9 弥生時代の渡来人について?

[従来の説] 弥生時代に渡来人が大量にやってきて、縄文人を追いやって新しい文化(弥生文化)を打ち立てた。

[現在の説] 弥生時代の渡来人はそう多くはなく、古くから日本列島に住んでいた縄文人と混血したりしながら、新しい文化を広めた。

[現在の高校教科書: 山川出版『詳説 日本史B』] 『弥生文化は、金属器をともなう農耕社会をすでに形成していた朝鮮半島から、必ずしも多くない人びとがその新しい技術を携えて日本列島にやってきて、在来の縄文人とともに生み出したものと考えられる。』

[現在の中学教科書: 東京書籍『新編新しい社会 歴史』] 『紀元前4世紀ごろ、大陸(主に朝鮮半島)から移り住んだ人々によって、稲作が九州北部に伝えられ、～』**④ どのくらいの渡来人がやってきたのか、渡来人は縄文人を追いやったのかは記述していない。**

[現在の中学教科書: 教育出版『中学社会 歴史』] 『中国で農業生産の高まりとともに人口が増え、国々の争いが激しくなると、その影響は周辺にも及びました。紀元前7～6世紀ごろ、朝鮮半島などから、人々が新たな土地を求めて九州の北部に渡ってきました。これらの人々は、水田での稲作や、新たなつくりの土器や農具などの大陸の文化を日本列島に伝えました。紀元前4世紀になると、新たな文化は西日本一帯に広まり、やがて東北地方にまで伝わりました。』**④ どのくらいの渡来人がやってきたのか、渡来人は縄文人を追いやったのかは記述していない。**

10 古墳時代はいつからいつまでか?

[従来の説] かつては古墳時代の始まりは3世紀末か4世紀初めで、終わりは6世紀か7世紀と考えられて、この時代を政治史のうで「大和時代」と呼んでいた。

[現在の説] 弥生時代の墳丘墓は集団墓だったが、やがて個人やその兄弟をまつる古墳へと変化した。古墳は3世紀末か4世紀初めよりもっと古くから築造されていたことが分かって、古墳時代開始は3世紀中頃か後半とされるようになった。さらに今では「大和時代」という言葉は用いないで「古墳時代」と呼ぶようになった。

[現在の高校教科書: 山川出版『詳説 日本史B』] 『古墳が営まれた3世紀中ごろから7世紀を古墳時代と呼び、これを古墳がもっとも大型化する中期を中心に、前期(3世紀中頃～4世紀後半)、中期(4世紀後半～5世紀末)、後期(6世紀～7世紀)に区分している。古墳時代後期のうち、前方後円墳がつくられなくなる7世紀を終末期と呼ぶこともある。古墳時代の終末期は、政治史のうでは飛鳥時代にあたる』

[現在の中学教科書: 東京書籍『新編新しい社会 歴史』] 『3世紀後半になると、奈良盆地を中心とする地域に、王を中心に、近畿地方の有力な豪族で構成する強力な勢力(大和政権)が生まれました。王や豪族の墓として大きな古墳が造られ、大和政権の勢力が広がるにつれて、全国の豪族も、前方後円墳などの古墳を造るようになりました。古墳が盛んに造られた6世紀末ごろまでを、古墳時代と呼びます。』

[現在の中学教科書: 教育出版『中学社会 歴史』] 『3世紀の後半になると、近畿から瀬戸内海沿岸を中心とする地域に、古墳がつくられるようになりました。～。古墳が盛んにつくられた6世紀ごろまでの時代を、古墳時代といいます。』

11 「大和朝廷」とは言わない！

[従来の説] かつての教科書では、古代日本を統一したのは「大和朝廷」と書かれていた。

[現在の説] 現在では、「朝廷」は天皇の下での中央集権的な官僚機構を持つ政府・政権のこととして、天皇号もなく律令制でもない連合国家のこの時代に当てはまるのは適切でないと考えられるようになった。また、「大和」というのは奈良時代以後の呼称で、7世紀までは様々な漢字が当てられていたので、7世紀以前は音だけの「ヤマト」が適切であると考えられている。従って、現在では「ヤマト政権」または「ヤマト王権」とされている。

さらに、古墳が営まれた3世紀中頃から7世紀のことを、政権の中心が「大和」にあったということで「大和時代」と呼んでいたが、今は「古墳時代」としか言わないようである。

[現在の高校教科書: 山川出版『詳説 日本史B』] ㊦ 「ヤマト政権」を使っている。

[現在の中学教科書: 東京書籍『新編新しい社会 歴史』] ㊦ 「大和政権」を使っている。

[現在の中学教科書: 教育出版『中学社会 歴史』] ㊦ 「大和政権」を使っている。

『中学校学習指導要領』では、「大和朝廷(大和政権)」を使用

『中学校学習指導要領解説』では、「朝廷」が政治の組織を意味することに気付くことができるようにする

12 「任那日本府」の理解が変わった

[従来の説] 紀元4世紀に中国東北部から起こった「高句麗」は朝鮮半島北部まで領土を拡大し、その南西部の馬韓の地に統一国家「百済」が成立し、南東部の辰韓の地に統一国家「新羅」が成立した。南端の弁韓は統一されず小国家群のままであった。弁韓の地の小国家群を『日本書紀』の用例に従って「任那」と呼んでいた。そして任那には大和朝廷が設ける「任那日本府」という統治機関があつて、百済や新羅を支配していたとしていた。(これが昭和期、特に戦前の軍国主義時代の説であった)

[現在の説] 現在は、朝鮮半島南端にあつた小国家の総称を朝鮮の史書などによって「加耶(加羅)」という。「任那」はその中の一国。そこに「任那日本府」というヤマト政権の統治機関があつてしかも百済や新羅を支配していたという説は否定されている。「任那日本府」の実態は、現地に居住する倭人集団組織のことか、倭国から派遣された使節のこととする説が有力である。

[現在の高校教科書: 山川出版『詳説 日本史B』] 『脚注: 馬韓諸国では百済が、辰韓諸国では新羅が台頭したのに対し、弁韓と呼ばれた朝鮮半島南部の地域では4～6世紀になっても小国連合的な状態が続いた。それらの地域を加耶(加羅)と呼ぶ。『日本書紀』では加耶を「任那」と呼んでいる。』 ㊦

「任那日本府」についての記述はない。

[現在の中学教科書: 東京書籍『新編新しい社会 歴史』] 『大和政権は、百済や伽耶地域(任那)の国々と結んで、高句麗や新羅と戦ったことが好太王(広開土王) 碑に記されています。』 ㊦ 「任那日本府」についての記述はない。

[現在の中学教科書: 教育出版『中学社会 歴史』] 『大和政権は、4世紀ごろ、鉄や進んだ技術を求めて朝鮮半島南端の伽耶諸国との関係を深め、百済とも同盟を結んで高句麗や新羅と戦いました。』

㊦ 「任那日本府」についての記述はない。

13 推古天皇の評価が評価が変わった！

[従来の説] 推古天皇の実態は蘇我氏に操られた傀儡天皇であった。

[現在の説] 推古天皇は傀儡ではなく、推古朝は、天皇推古と摂政厩戸王と大臣蘇我馬子との三者により政治が行われた。

[高校教科書: 山川出版『詳説 日本史B』] 「国内では、大臣蘇我馬子が587年に大連の物部守屋を滅ぼし、592年には崇峻天皇を暗殺して政治権力を握った。そして、敏達天皇の後であつた推古天皇が新たに即位し、国際的緊張のもとで蘇我馬子や推古天皇の甥の厩戸王(聖徳太子)らが協力して国家組織の形成を進めた。」

[現在の中学教科書: 東京書籍『新編新しい社会 歴史』] 『大和政権の中でも、蘇我氏や物部氏などの豪族が、それぞれの支持する皇子を大王にしようとして争いが続きました。この争いを和らげるために女性の推古天皇が即位すると、おいの聖徳太子(厩戸皇子)が摂政になり、蘇我馬子と協力しながら、中国や朝鮮に学んで大王(天皇)を中心とする政治制度を整えようとなりました。』

[現在の中学教科書: 教育出版『中学社会 歴史』] 『中国に隋が成立した6世紀の末、蘇我馬子は姪の推古天皇を女帝として即位させました。そして、天皇の甥に当たる聖徳太子(厩戸皇子)が、摂政として天皇の政治を助け、馬子らとともに、中国や朝鮮にならった新しい政治を始めました。』

14 聖徳太子についてはかなり変わった！

[現在の説] (1)「聖徳太子」という呼称について: 「聖徳太子」というのは後代の呼称で推古朝の時代には使われていなかったというので現在の高校教科書では「厩戸皇子(聖徳太子)」または「厩戸王(聖徳太子)」と記述されている。(2)摂政について: 摂政という役職も推古朝ではまだなかったと

いう指摘がある。(3)推古朝の国政を主導したのが聖徳太子と言われてきたが、今では推古天皇・厩戸王・蘇我馬子の3人の共同政治と考えられている。(4)それに推古朝に行われた十七条の憲法・冠位十二階・遣隋使派遣・法隆寺建立もどれも聖徳太子の施策であるとの確証がないので、教科書では誰がやったと書かずに推古朝の施策として記述しているものがある。(5)お札の似顔絵になった聖徳太子像は、8世紀半ばに描かれたもので聖徳太子と似ているという根拠がないと考えられている。

【高校教科書:山川出版『詳説 日本史B』】『敏達天皇の後であった推古天皇が新たに即位し、国際的緊張のもとで蘇我馬子や推古天皇の甥の厩戸王(聖徳太子)らが協力して国家組織の形成を進めた。603年には冠位十二階、翌604年には憲法十七条が定められた。～。こうして王権のもとに中央行政機構・地方組織の編成が進められた。中国との外交も遣隋使の派遣により再開され、『隋書』にみえる600年の派遣に続けて607年には小野妹子が遣隋使として中国に渡った。この時の隋への国書は倭の五王時代とは異なり、中国皇帝に臣属しない形式をとり、煬帝から無礼とされた。』『厩戸王(聖徳太子)創建といわれる四天王寺・法隆寺(斑鳩寺)などが建立され、～』

池 お札の肖像画は掲載されていない。「摂政」の言葉は使われていない。

【現在の中学教科書:東京書籍『新編新しい社会 歴史』】『大和政権の中でも、蘇我氏や物部氏などの豪族が、それぞれの支持する皇子を大王にしようとして争いが続きました。この争いを和らげるために女性の推古天皇が即位すると、おのの聖徳太子(厩戸皇子)が摂政になり、蘇我馬子と協力しながら、中国や朝鮮に学んで大王(天皇)を中心とする政治制度を整えようとなりました。なかでも、かんむりの色などで地位を区別する冠位十二階の制度は、家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を、役人に取り立てようとしたものです。また、仏教や儒教の考え方を取り入れた十七条の憲法では、天皇の命令に従うべきことなど、役人の心構えを示しました。中国では6世紀の末に、隋が南北朝を統一して強大な帝国を造り上げました。そこで日本は、東アジアでの立場を有利にし、隋の進んだ制度や文化を取り入れようと、607年に小野妹子などを送り、この後数回にわたって隋に使者を送りました。』『法隆寺の建物も、火災にあって再建されてはいますが、聖徳太子が建てた当時の姿を残しているといわれています。』

池 お札の肖像画が掲載され、『聖徳太子と伝えられる肖像画』と記述されている。

【現在の中学教科書:教育出版『中学社会 歴史』】『中国に隋が成立した6世紀の末、蘇我馬子は姪の推古天皇を女帝として即位させました。そして、天皇の甥に当たる聖徳太子(厩戸皇子)が、摂政として天皇の政治を助け、馬子らとともに、中国や朝鮮にならった新しい政治を始めました。7世紀の初め、朝廷では冠位十二階の制度が定められ、家柄にとらわれず、能力や功績のある豪族を役人に取り立てる道が開かれました。さらに、聖徳太子は、仏教や儒教の教えをもとにした十七条の憲法をつくり、豪族が争いをやめ、天皇を中心とする政治にはげむように役人としての心構えを説きました。また、隋との国交を開き、中国の進んだ文化を取り入れようとして、小野妹子らを遣隋使として派遣しました。』『聖徳太子が立てた法隆寺には、～』

池 お札の肖像画が掲載され、『聖徳太子と伝えられる肖像画』と記述されている。

【中学校学習指導要領】では、「聖徳太子の政治」を取り上げる際には、聖徳太子が古事記や日本書紀においては「厩戸皇子」などと表記され、後に「聖徳太子」と称されるようになったことに触れること。

- 15 大化の改新については変わった！
- 16 「藤原京」が変わった！
- 17 日本最古の貨幣は「和同開珎」ではない！
- 18 「墾田永年私財法」の評価が変わった！
- 19 道鏡は悪僧とは言えない！
- 20 遣唐使終了とその後の中国との交流や国風文化との関係が変わった！
- 21 「受領」の評価が変わった！
- 22 「摂関政治」のイメージが変わった！

3本目:知っ得ニュース 63

池田義光

現代社会の情報と考察のため、今回も会員の皆さんが知っておくべきニュース、知って得するニュースをとりあげて、その解説を行ってきた「知っ得ニュース」も毎回1本ずつ報告してきて、今回で63回目になりました。

知っ得ニュース 63

池田義光

[1]戦後中国経済の変遷 ←ネット検索情報、池上彰「そうだったのか！中国」

1 社会主義の中国

(1) 1949年に社会主義を掲げる国、中華人民共和国が成立

第二次世界大戦後、中国共産党が国民党との戦い勝利して、1949年に中華人民共和国が成立。

「社会主義」とは

「社会主義」とは、「資本主義」に対抗する体制・思想・運動。資本主義は、個人所有や自由主義経済だが、社会主義はそれを否定する。資本主義社会は、経済が活発になり、富が蓄積されるが、所得格差が増大して貧富の差が広がる。社会主義は、こうした資本主義の弊害を正そうとする思想で、私有財産を禁じ、社会(国家)が生産手段を所有して共同で生産し、富の再分配を行うことで、全ての人が平等な社会を築こうという考え。「共産主義」はその最終段階。

(2) その後の政策

- ①毛沢東主導の「大躍進政策」と「文化大革命」で政治・経済が大混乱
- ②「改革開放」政策（社会主義市場経済政策）で政策転換して、経済成長

(3) 現在の中国

現在の中国は、経済は一応「市場経済」だが、社会主義を掲げる国

- ①土地は原則的に国家のもの。
- ②共産党は事実上の一党独裁で、国家を指導するので、民主主義の国と比べて、国の資産(土地や金など)や人民の情報(ビッグデータ)などを共産党と政府が自由に動かせる。経済に与える国の影響が極めて大きい。

2 戦後の「大躍進政策」と「文化大革命」で行き詰まり

(1) 大躍進政策

①大躍進政策とは

1949年に成立した中華人民共和国は、ソ連型の社会主義経済路線を参考にした。1958年、毛沢東は、当時世界2位の経済大国イギリスを15年で追い越すと宣言し、性急な社会主義国の建設を目標に、「大躍進政策」を掲げた。そして「鉄鋼の生産拡大」と「農業の集団化」が推し進められた。

②農業の集団化政策として「人民公社」が成立

毛沢東の考えでは、社会主義・共産主義は私有財産を認めないのだから、農民から土地を取り上げて集団の共有(国家の所有)とし、地域ごとに全国に2万6000の人民組織、「人民公社」を作らせた。農民は「人民公社」集団で働き、農業だけでなく工業・商業・教育・文化・軍事も集団で行うことにした。毛沢東にしたならこの社会大変革により社会主義・共産主義の理想を実現するつもりだったが、しかしこれは大失敗であった。農民は働いても働かなくても利益や分配は変わらないので急速に労働意欲を失い、また田畑を大事にする気持ちや家畜を大事にする気持ちを失っていった。

農業のことをあまり知らなかった毛沢東が指導した数々の農業政策は別の大混乱を招いた。例えば、毛沢東は「稲は密集させて植えろ」という指示を徹底させた。毛は稲も集めれば労働者と同じように互いに助け合うだろうという程度の考えであった。全国で稲の密集植えのために生産が減ったが毛沢東の指示なので逆らえなかった。また、田や畑を深く耕すほど増産するという根拠のない指示で、表土の薄い地域ではかえって表土を失うという結果を招いた。またスズメ・ネズミ・ハエ・昆虫が「4悪」とされ、人海戦術で徹底的な駆除運動が行われた。例えばスズメの駆除のために人民公社総出で太鼓や鉦を鳴らさせられた。スズメが驚いて飛び立つとスズメが疲れて死ぬまで鳴らし続けるというものだった。そしてスズメが減ると害虫がはびこった。こんなことをして農作業がおろそかになった。

こうして「人民公社」という制度と無知でばかげた農業政策のせいで、中国全土の農業生産が著しく減った。

③鉄鋼増産政策の実態

毛沢東は、まず重工業を発展させるための鉄鋼生産でイギリスに追いつくという目標を立て、全国に60万という膨大な数の溶鉱炉を建設し、それに1億人の農民を働かせた。といっても毛沢東は鉄は耐火レンガにモルタルを塗っただけの高さ4~5mの手作りの「裏庭の高炉」で十分生産可能と考えていた。しかし鉄鋼は欧米では巨大な製鉄所で何十もの工程を経て高品質の鉄を生産するが、「裏庭の高炉」で作った鉄はただの質の悪い鉄の塊に過ぎず、使い物にならなかった。にもかかわらず毛沢東が視察する時は工場幹部は別の高品質の鉄を見せて機嫌をとっていたので毛沢東は本当のことに気づかなかった。しかも、全国60万の溶鉱炉に溶かす原料の鉄鉱石が圧倒的に不足

したため、クワ・スキ・やかん・バケツなど手近にあった金属類を炉に投げ入れて鉄を作ることが行われた。こうして農村から農作業用具がなくなり、鉄鋼増産政策でかえって鉄製品がなくなる自体となった。また、全国 60 万炉の燃料にするため、大量の山の木が切り倒されてハゲ山となり、大洪水と山崩れを招いて農産物の収量が激減した。さらに 1 日に 18 時間の溶鉱炉での労働を課せられた農民たちには田畑で働く時間はなくなったために、農業生産は一段と低下し貧困と飢饉が蔓延した。

④ 飢饉

愚かな「大躍進政策」で中国全土の農業は破壊され、農村部はもちろん、都市部でも、野草をとって飢えをしのぐ人の姿が続出した。しかし、毛沢東や国家指導者の所には真実は届かないしくみだった。そこで飢餓は日に日に深刻化していき、人肉を食べるという自体も横行するようになった。餓死者は 3600 ～ 7000 万人といわれた。

(2) 文化大革命

① 文化大革命（プロレタリア文化大革命、文革）とは

中華人民共和国で毛沢東主導により、名目は「封建的文化と資本主義文化を批判し、新しく社会主義文化を創生しよう」と行われた革命運動。1966 年から 1976 年まで続き、1977 年に終結宣言がなされた。しかし実際は、「大躍進政策」の失敗によって国家主席の地位を劉少奇に譲った毛沢東が自身の復権を画策した中国共産党内部での権力闘争。毛沢東は政敵を攻撃させるために、紅衛兵と呼ばれた学生運動を扇動し利用した。「大躍進政策」につづいて「文化大革命」により中国はさらなる大混乱に陥った。

② 文化大革命の展開

「大躍進政策」の責任をとる形で毛沢東が国家主席から失脚した後は、党中央委員会副主席兼国家主席に就任して実権を握った劉少奇や鄧小平共産党総書記ら「実権派」と呼ばれる人々が、市場経済を部分的に導入して中国は飢饉から回復しつつあった。

しかし党主席として残った毛沢東は、実権派を排除し復権を果たすことを考えた。そこで「社会主義革命の後にも常に資本主義に戻ろうとする勢力(走資派)がでるので社会主義革命を継続しなければならない」という独特の理論＝毛沢東の「継続革命論」をかかげ、「中国社会主義革命は、走資派(実権派のこと)の修正主義によって失敗の危機にある。修正主義者を批判・打倒せよ」と主張して、紅衛兵と呼ばれる学生らとともに「文化大革命」を開始した。

実権派や、その支持者と見なされた中国共産党の幹部・知識人・旧地主の子孫などは「反革命分子」とされ、「造反有理」を掲げる熱狂した紅衛兵による組織的・暴力的な吊り上げが中国全土で横行した。劉少奇や鄧小平ら実権派が失脚したほか、過酷な糾弾や迫害によって多数の死者や自殺者が続出した。死者 40 ～ 1000 万人と言われる。また紅衛兵も派閥に分れて抗争を展開した。さらに封建的な旧文化であるとして貴重な文化財が壊滅的に破壊された。

紅衛兵を利用した実権派追い落としが成功したのち、紅衛兵の暴走が次第に毛沢東にすら制御不能となると、毛沢東は 1968 年に「下放」を主唱し、都市の紅衛兵に国の根幹である農作業を学ばせるという名目で強制的に地方農村に追いやって事態を収拾した。

その後毛沢東の腹心の林彪が毛沢東と対立して飛行機で国外逃亡を試みて事故死する事件が起きた(林彪事件)。林彪の死後も江青ら「四人組」を中心として文革は継続したが、1976 年に毛沢東が死去すると、四人組が失脚して、ようやく「文革」は終息した。

③ 中国の「文化大革命」は世界中に影響を与えた

「毛沢東語録」は三十カ国以上に翻訳される大ベストセラーとなり、世界に「赤い中国」「革命中国」「毛沢東思想」「農本主義」を強く印象づけ、学園闘争・ベトナム戦争反対・反スターリニズム・反米・反帝国主義の運動と結びつき、各国の知識人や政治、大衆運動、ヒッピーなどに大きな影響を与えた。

④ 「文化大革命」が中国に与えた影響

- ・当時の中国共産党幹部の 4 分の 3 が迫害・虐殺された。
- ・死者 40 ～ 1000 万人、被害者 1 億人と言われる。
- ・中国の伝統的な文化財の多くを失った。
- ・経済が再び大混乱した。
- ・約 10 年間、授業が停止されるなどして、教育がおろそかにされた。
- ・多くの知識人や青年が農村に追い詰められ強制労働で体を壊すなどし、中国の発展が阻害された。

3 「改革開放政策」で政策転換してから経済成長

(1) 「改革開放政策」とは

中国で、1978 年から鄧小平を中心として実施された経済政策。文化大革命後の経済混乱と低迷を立て直すため、人民公社の解体などの経済改革、経済特別区の設置と海外資本の積極的な導入などが行われ、市場経済への移行が推進された。当初は「改革開放」という表現が明確に用いられたわけではなく、1979 年の人民公社の解体に始まる農村の体制「改革」、対外「開放」政策を初めとして、それぞれ用いられるようになった。

(2) 「改革開放政策」の展開

①市場経済への移行期(1978年 - 1992年)

毛沢東時代の「大躍進政策」と「文化大革命」で疲弊した経済を立て直すため、鄧小平は、農業・工業・国防・科学技術の「四つの近代化」政策を復活させ、市場経済体制への移行を試みた。基本原則は「先富論」に代表されるように、先に豊かになれる条件を整えたところから豊かになり、その影響で他が豊かになればよいという考え方である。これはそれまでの絶対平等主義を切り離れた考え方である。

これに則り、農村部では、安徽省のある農村で人民公社の土地を各農家に割り当てて、そこで働いて収穫したものから一部を人民公社に渡せばいいという「各戸生産請負制」の成功実績をもとに、中国全土で「生産責任制」で経営自主権を保障し、農民の生産意欲向上を目指した。「人民公社」は急速に解体に向かい、1984年には消滅した。農業以外でも農民などが何人か集まって企業を設立し農産物を加工するなどして利益を生み出す「郷鎮企業」が認められるようになり、急速に全国に広まった。「生産責任制」や「郷鎮企業」のやりかたは資本主義なら当たり前のやり方だが、これが功を奏した。

また、外資の積極利用のために広東省の深圳、福建省のアモイなどに「経済特区」が、上海・天津・広州・大連などの沿岸部諸都市に「経済技術開発区」が設置された。華僑や日欧米の資本を積極的に導入することで、資本確保や国外からの技術移転など成し遂げる一方、企業の経営自主権の拡大などの経済体制の改革が進んだ。

改革開放政策は、同時に中国社会に大きな矛盾を生み出した。農村部と都市部、沿岸部と内陸部における経済格差が拡大し、官僚の汚職や腐敗が一層深刻なものになった。インフレや失業も目立つようになり、共産党に対する不満は高まっていった。1989年には「(第二次)天安門事件」が発生したことで政府による政治・経済の引き締めが行われ、「改革開放」政策は一時中断した。

②社会主義市場経済(1992年 -)

1992年以降、再び「改革開放」が推し進められ、経済成長は一気に加速した。しかし、都市と農村、沿海部と内陸部の地域格差は深刻化し、とりわけ農民の不満が高まった。社会主義市場経済体制のもとで、江沢民・朱鎔基政権は格差是正と一層の経済改革に取り組むことになる。格差是正のための西部大開発、国営企業改革に伴う失業者の増大といった新たな問題も発生した。このような問題を抱えながらも、中国経済は「世界の工場」と呼ばれるまでに成長した。

2002年から、胡錦涛党総書記政権が発足。2020年のGDPを、2000年の4倍にし、年平均7.2%成長するという戦略を打ち出した。

2003年には全国人民代表大会で温家宝が国務院総理(首相)に選出され、朱鎔基の経済改革を継承する。2004年には、私有財産権保護を明記した憲法改定案が全人代で採択され、株式制度、企業統治制度など、国有企業の改革のための政策も打ち出された。また、2007年の全人代では、私有財産の保護を明記した物権法、国内企業と外資企業の所得税率の格差を是正する企業所得税法が採択された。2008年の北京オリンピックや2010年の上海万博開催などにより、「改革開放政策」はより一層進展した。

2013年に習近平が党総書記・国家主席に、李克強が国務院総理(首相)に就任して、現在に至っているが、格差拡大や官僚の腐敗への対応が最重要課題となっている。

③開放政策

中国政府は1978年に経済体制の改革を決定すると同時に、対外「開放」政策も計画した。

1980年から順次、広東省の深圳・珠海・汕頭、福建省のアモイ及び海南省に5箇所の経済特区を設置し、1984年にはさらに大連・天津・青島・上海・寧波・福州・広州などの14沿海都市で、従来の中国国内の経済規制を取り払い、外国資本に自由な経済活動を認めることや企業の税を安くしたり、労働者や工場用地を斡旋したり、100%外資の企業を認めたりして、外国資本・外国企業を積極的に誘致した。これらの都市は中国のいわば外国であり、資本主義の実験場であった。これにより中国は雇用を増大すると同時に資本主義のやり方や外国の優れた技術を学ぼうとした。進出した企業や資本にとっては、数々の優遇策や低賃金労働などが魅力的であった。

さらに1985年以降、長江デルタ・珠江デルタ・山東半島・遼東半島・河北省・広西チワン族自治区などを経済開放区として沿海経済開放地帯を形成した。1990年、中国政府は上海浦東新区の開発と開放を決定し、一連の長江沿岸都市の開放をさらに進め、長江開放地帯を形成した。1992年以降は辺境都市や内陸の全ての省都と自治区首府を開放した。さらに一連の年に15箇所の保税区、49箇所の国家級経済技術開発区と53箇所のハイテク技術産業開発区を設定している。

このように中国は、全方位・多层次・広領域の対外開放構造を形成し、中国経済はめざましく発展した。また、こうした対外経済開放地区では外向型の経済成長、輸出拡大、先進技術導入などの面で大きな役割を果たした。

4 現在は世界第2位の経済大国

(1)GNPで世界第二位の経済大国

① 2010年に名目GDPで日本を抜き世界第2位になった中国。

② 2017年の名目GDP比較…1位アメリカ19兆3600億ドル、2位中国11兆9400億ドル、3位日本4

兆 8840 億ドル、4 位ドイツ 3 兆 6520 億ドル、5 位イギリス 2 兆 5500 億ドル

(2) 中国は世界中に工業製品を大量に輸出して「世界の工場」と呼ばれている

(3) 中国のアフリカ進出

- ① 中国とアフリカの経済関係は 1990 年代から著しい拡大を見せた。貿易総額は 2000 年に約 100 億ドルだったが、2010 年には約 10 倍の 1000 億ドルに達した。中国によるアフリカ各国への資金援助や投資も巨額になっており、アフリカ各国に大きな影響を与えている。
- ② 現在アフリカ全体で中国人は 100 万人が暮らしているが、日本人は 1 万人にも満たない。

(4) 中国からヨーロッパ・アフリカを結ぶ「一帯一路」構想

(5) 通信・情報技術と産業の成長

- ① 中国では IT 産業の成長はすさまじい。スマホやパソコンの生産台数やシステム開発の分野においては世界を席卷するほどの勢いで成長している。中国 IT 産業の躍進は、政府が国策として取り組んだ事に大きな要因がある。中国政府は、1990 年代に IT 産業を国の重要な分野と位置づけてさまざまな施策を推進してきた。5 カ年計画で中国政府によって数々の野心的な目標が設定され、IT のインフラを早急に整備していった。勤勉な国民性と優れた人的資源が豊富だったこともあり、結果的に IT 産業を短期間で先進国の水準まで引き上げることができたのだ。
- ② AI 大国を目指す中国
 - 1) AI 研究者世界一は米国 7 万 8 千人、2 位中国 3 万 9 千人
 - 2) AI の産業のオイルと呼ばれるのはビッグデータで中国は圧倒的に有利（人口 14 億と膨大で、しかも個人情報保護意識が低く国家が比較的自由にビッグデータを使える）
 - 3) AI の軍事利用が進む（「軍民融合」政策。北京理工大学に「AI 兵器システム実験班」ができた）
 - 4) すでに AI 活用が進んでいる（顔認証システム、キャッシュレス、金融取引、治安活動など）
- ③ 通信の 5 G 基地局の設置で、中国華為技術（ファーウェイ）は、世界のトップクラス。
- ④ 中国にアリババ・テンセント・バイドゥ・中国華為技術（ファーウェイ）など世界有数の IT 企業

(6) 香港・マカオ・広東省 9 都市を一大経済拠点にする計画

人口約 7000 万人のこの地域を、2035 年までに最先端技術、製造業、サービス業が集まる一大経済拠点へと変革させる壮大な計画がある。経済規模で GDP 世界 12 位のロシアを上回り、11 位の韓国にほぼ匹敵する。計画は、国際金融都市・香港とカジノ産業で知られるマカオ、日本企業も多数進出する広東省の主要 9 都市を一つの経済圏とし、域内の規制緩和と協力強化を通し、科学技術や金融、流通などの成長を促すというもの。香港、マカオ、広東省の省都の広州、ハイテク産業などが集積する深圳は、発展を先導する「中核都市」と位置づけられた。

(7) 2019 年 1～3 月期の中国の経済成長下げ止まる

2019 年 1～3 月期の実質 GDP が前年同期比 6.4% 増だった。これは 2018 年 10～12 月期から 3 四半期続いた成長率の鈍化・横ばい状況に歯止めがかかったと見られる。これは、米中通商紛争が小康状態になっていることと、2018 年後半から打ち出された景気刺激策（預金準備率引き下げ、自動車や家電の買い換え奨励策、企業減税、社会保険料負担削減など）の効果が出たと見られる。

[2] 欧州と「一帯一路」

1 「一帯一路」構想

(1) 「一帯一路」とは…中国が進める現代版シルクロード経済圏構想。「一帯」とは、中国西部から中央アジアを経由してヨーロッパへと続く「シルクロード経済ベルト」を指し、「一路」とは、中国沿岸部から東南アジア、スリランカ、アラビア半島の沿岸部、アフリカ東岸を結ぶ「21 世紀海上シルクロード」を指す。

(2) 具体的には…今後、数十年かけて、これらの地域に道路や港湾、発電所、パイプライン、通信設備などインフラ投資を皮切りとして、金融（「アジアインフラ投資銀行」など）、製造、電子商取引、貿易、テクノロジーなど各種アウトバウンド投資を積極的に進め、当該経済圏における産業活性化および高度化を図っていくプログラム

(3) 成果は…中国の一帯一路沿線諸国への直接投資は 2014～16 年に 500 億ドル、中国企業の新規建設工事請負契約 3049 億ドル。中国と 68 ヶ国間で数十億ドルにのぼる大規模プロジェクトが推進中でその規模は約 9000 億ドル。パキスタンのグワダル港は、現在中国により約 500 億ドル規模の開発中。新しい道路、1800km の鉄道線路や石油パイプラインなど、完成すれば 100 万バレルの石油が 1 日で輸送できる。東南アジアでは、主要な 10 都市を結ぶ道路建設計画が進行中。

(4) 「中欧班列」鉄道網…中国政府は 2020 年をめどに欧州との鉄道物流の輸送量を 16 年の 3 倍に増や



す計画で世界最長規模の貨物鉄道が運行を開始した。「中欧班列」が 2017 年元日、中国最大の日用品卸売市場がある浙江省義烏市から車両 34 両に商品を満載して、イギリスのロンドンに向けて出発。カザフスタン、ロシア、ベラルーシ、ポーランド、ドイツ、ベルギー、フランスを通り、英仏海峡トンネルを抜けてイギリスに入り、終点のロンドンへと 9 カ国 15 都市を結ぶ。

- (5)参加国は…今年 4 月 26 日から北京で開催された「一帯一路国際フォーラム」に 150 以上。
(6)問題点…米国は「債務のわな」と批判(中国の融資で港を建設したスリランカは巨額負債を抱え、中国に 99 年間の港運営権を与えた)

2 最近のヨーロッパ諸国と「一帯一路」の関わり

- (1)一帯一路の参加署名済みのヨーロッパ 13 か国 (バルト 3 国・ポーランド・ポルトガルなど)
(2)EU の欧州委員会は警戒 (対中国を競争相手と位置づけて警戒しているのだが、)
(3)今年 3 月下旬に中国の習近平主席が、イタリア・フランスを訪問
①イタリアは一帯一路に参加…一帯一路に参加してインフラ整備・銀行システム・通信技術で中国と協力する覚書に署名した (インフラ整備にチャイナマネーを呼び込むと同時に対中国貿易赤字を減らし、経済回復を目指すねらい)
②フランスの航空機を中国が大量購入を約束

[3]イスラエル総選挙とトランプ氏の関係

1 ネタヤニフ首相の続投

4 月 19 日に行われたイスラエルの総選挙の結果、ネタヤニフ現首相の続投が決まった。選挙序盤のネタヤニフ首相は、自身の汚職疑惑や新たな野党勢力の登場で苦戦したが、これを救ったのはトランプ米国大統領だったといわれる。

2 トランプ大統領「米国がゴラン高原におけるイスラエル主権を認める」

- (1)ゴラン高原は、中東戦争の結果 1967 年にイスラエルが占領した時に、国連安保理がイスラエルの撤退を決議したにもかかわらず、1981 年にイスラエルが併合を宣言し、安保理が宣言の無効を決議。米国も常任理事国として決議に参加。
(2)トランプ大統領の発言は、対アラブ強硬派ネタヤニフ首相の外交手柄と国民に評価された

3 トランプ大統領はなぜこうした発言をするのか

- (1)昨年も、米大使館をテルアビブからエルサレムに移転し、ネタヤニフ首相から感謝された
(2)トランプ政権は娘婿でユダヤ教徒でネタヤニフ氏と親交のあるクシュナー上級顧問に中東政策を主導させている。
(3)トランプ氏の米国内最大の支持母体キリスト教福音派は親イスラエルなので、支持固めをはかる。

次回社会科セミナー 7月13日(土)

<勉強会>は、船橋市勤労市民センター 1時 集合

1. 知っ得ニュース (池田)
2. 変わる歴史教科書 (池田)
3. 日本史豆知識 (池田)
4. 社会科指導法講座 (池田)
5. その他 (報告者募集中!)

※終了後 船橋駅周辺で 4:45 頃から <懇親会>

⇒会員の皆様は、出席・欠席をできれば 2週間前までに
池田宛てにショートメール(09023132569)でお知らせください
なお、池田宛のパソコンメールは ikeyoshi.24@gmail.com

お知らせ: 社会科セミナーのホームページは <船橋市社会科セミナー> で検索ができます!

本セミナーのお知らせは、このホームページで行います。「次回の社会科セミナーのお知らせ」や「社会科セミナー通信のバックナンバー」「タイ見聞録」「台湾見聞録」「ベトナム見聞録」「韓国見聞録」「沖縄紀行」も公開されておりますので是非ごらんください。